

## 研修報告書 No.13

研修先： 土佐市民病院

この度、1か月にわたり地域医療研修を行いましたので、今回の研修で学んだこと、感じたことを報告書としてまとめさせていただきます。

研修内容としては一般内科外来を中心にを行い、さらにその中で入院となった患者さんの病棟管理を行いました。また、耳鼻科外来や小児外来といった専門外来にも参加しました。外来全体を通して、市民病院という立ち位置も関係しているとは思いますが、普段の研修では中々関わることのできない高血圧や脂質異常、感冒症状といった一次医療機関的疾患に対する初診に参加できた点が非常に印象的でした。また、外科外来ではマムシ咬傷やムカデによる刺し傷などがみられた点も地域医療ならではのと感じました。小児外来では聴診、触診、視診といった基本的な診察にも積極的に参加し、その中で診察のポイントや外来診療のコツも教えていただき、経験値として非常に大きなものを得られたと考えています。

高知県内の地域医療の現状として強く感じたことは地域全体の高齢化でした。外来に来院される患者さんの多くが高齢者であり、患者として高齢者の母数が多いことに加え、その患者さんのご家族やキーパーソンも同様に高齢者である場合が多く見受けられました。このような場合は、入院患者さんだけでなくキーパーソンとなるご家族自身も何かしらの疾患に対して治療介入中であることが多く、高齢独居の患者さんの退院後の生活に協力することが難しい事例を経験しました。退院・転院調整においてもそれらを加味する必要性があり、この問題の解決には単に医師が充足するだけでなく、介護士や訪問看護師などの人材や訪問看護ステーションなど設備面の充実も重要であると感じました。

また、高齢社会においては、どのような形で終末を迎えるかも非常に重要なテーマであると改めて感じました。患者さん自身がどこで最期を迎えたいのか、延命的な治療を望むのかなど難しい課題をご家族と一緒に話し合っていきながら、一人一人に最善の方針を決定することが欠かせないと実感しました。

私自身は今回の研修を通して、横断的診療能力の重要性と外来診療の基礎を学ぶことができたと考えています。一般内科外来では、自分の専門、志望科に関わらず内科として多くの患者さんが来院されます。そのため、common な疾患に関しては自分の専門領域でなくとも診療できる能力が必要とされ、その点においては普段研修している施設の外来とは違った貴重な経験をできたと考えています。

さらに、外来診療では限られた診察時間の中で医療面接、鑑別、その後の検査オーダーまでを迅速に組み立てる必要があります、そのスピード感に最初は困惑した部分もありました。しかし、先生方の指導のお陰で、当初よりは自信を持ってできるようになったと考えています。

また、当日の検査だけでは明確な原因が判明しないこともあり、そのような場合に再度受

診していただき経過をみることの重要性も感じました。

研修中は上級医の先生方はもちろんですが看護師の方々やその他の医療スタッフの方々にも丁寧に対応していただき非常に心強さを感じるとともに、自分の実力不足を感じる場面も多くあり、まだまだ研鑽を積んでいく必要があると痛感しました。

休日には、にこ淵や仁淀川など大自然を堪能するとともに、それらによって育まれた海産物や畜産物をいただき英気を養うことができ、観光という側面でも非常に充実した1か月となりました。今回お世話になった土佐市民病院には自主性を尊重しながらしっかり指導してもらえ環境が整備されており、研修を通して大きく成長できる場所であると感じました。1か月という短い間でしたが、土佐市民病院の職員の皆様を始め、高知医療再生機構の方々、そして何より土佐市民の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。